



お手紙書くような気持ちでの通信づくり

群馬県の正式な教員として教壇に立つて、3年が経ちました。3年目にしようと持った担任。悩むことも多くありましたが（悩むことの方が多くありませんが）、毎日が楽しくて仕方ありませんでした。目の前の生徒達が可愛くて、自然と通信の発行数も増えていきました。そうした取り組みが、恐れ多くも新人賞受賞という結果につながり、「私なんかの通信が賞をいただいでしまつて良いのだろうか」と、恐縮するばかりです。

初めての担任で、初めての学級通信。経験も少ない私ですが、私なりの学級通信への想いを書かせていただきます。

○大事にしていること

1 「読みたい」と思える通信作り

学級通信発行にあたって特に意識していることは、「読みやすさ」です。「どんなに内容が良くても、読み手に「読みたい」と思ってもらえなければ意味がない」という想いのもとで、読んでもらえる通信づくりを、私なりに心掛けてきました。そのため、カメラは必須。興味を持ってもらえるよう、レイアウトの工夫はもちろん、生徒の日々の様子を意識して記録し、その写真をエピソードつきで積極的に掲載しました。

2 温かい気持ちになれるような内容に

私が幼かった頃、母が、よく手紙を書いてくれました。お誕生日や入学式など、なにかあると必ずちよつとしたメッセージを書いて、渡してくれたのを覚えています。それは、私が大学生になつても続きました。実家から送られてくる小包に

は、必ず母からのメッセージがついていました。時には私を主人公にした絵本を手作りし、正しい生き方について教えてくれたこともありました。そうした母からのメッセージは、いつも私の心の支えになり、温かい気持ちにさせてくれました。

そんな母からの手紙をイメージし、生徒に対してお手紙を書くような気持ちで、愛情を込めて書くようにしました。

○嬉しかったこと

嬉しかったのは、多くの生徒が配布されるや否や、食い入るように読んでくれたこと。毎号きちんと保管してくれていた保護者がいたこと。そして、休み時間に教室掲示されているSTORYを囲んで、それを話題に盛り上がっている生徒の姿がしばしば見られたこと。

○まとめ

生徒や保護者の方との関わりの中で、どんな通信が求められているかを常に頭に置きながら、これからも通信づくりを楽しんでいきたいと思えます。より多くの方に読んでもらえる学級通信を目指して。

●制作データ

- ・紙面のサイズ A4
- ・毎号のページ数 1ページ（掲載内容が多い場合は2ページで両面印刷）
- ・印刷 基本的にはモノクロ。学校行事及び最終号はカラー印刷（多くの写真を掲載したため）
- ・発行号数 平成22年度年間60号
- ・発行間隔 不定期。ただし、1学期の生徒自己紹介掲載中は、毎日発行。
- ・配布対象 生徒とその保護者

講評

（木野村雅子）

まず、題字に合わせて「第〇号」ではなく「第〇話」にしたところはGoodアイデアです。また、全体的にすっきりし、見やすい紙面でした。

内容は生徒の目線に立った平坦かつ馴染みやすい言葉で書かれ、その語調はきつと生徒たちを温かさで包み込んでいることと思います。本文の構成が、第1章、第2章：のように題字「STORY」と関連付いていることも統一感がありました。全話がそれで統一されて書かれるともっとワクワクしそうです。

自己紹介シリーズは、生徒も保護者も楽しみに読んでくださったことと思います。そのコーナーをもう少し小さくし、先生のコメントを増やすとバランスが良くなります。

全体的にインパクトがあるという層読み手を惹きつけます。見出しで強調したい語句など、もう少し存在感あるレイアウトにすると効果的です。また、すっきり感を損なわない程度に枠をつけての作成も試みてください。